

# 「残業代ゼロ法案」とりあえず通す

## 厚労相、経営者の会合で発言

一部の労働者を労働時間規制の適用除外にする「高度プロフェッショナル制度」の新設を柱とした労働基準法改正案をめぐり、塩崎恭久厚労相が経営者らの出席した会合で、経済界に制度拡大を求める声が強いのを受け「ぐっと我慢していただいて、とりあえず（法案を）通すというところで応援してほしい」となどと発言していたことが二十四日、分かった。共同通信に関係者が明らかにした。

### 要件下げの意図否定

制度の対象者は年収千七十五万円以上。経団連などは「対象者が少なすぎる」として拡大を求め、労働側は「残業代ゼロ」と反発している。この日の衆院厚労委員会での発言の趣旨が取り上げられたが、詳しい内容が明らかになったのは初めて。民主党議員は「法案が通れば広げるから、通るまでは静かにしろ」という意味ではないのか」と追及し、塩崎氏は否定した。

き方をやってもらうことと、とりあえず入っていく」と説明。

その上で「経団連が早速千七十五万円を下げると言ったから質問がむちゃくちゃきました。それはぐっと我慢していただいて、とりあえず通すというところで、応援してもらえと大変ありがたい」と述べた。

改正案は今国会で審議入りする見通しで、与野党の対決法案の一つ。塩崎氏は厚労委員会でも「経済界が（年収要件を）下げると言っていることには不快に思っている。私の頭に（要件を下げることは）全くない。今の法案通りに通すのが私の責務だ」と答弁した。

関係者によると、塩崎氏は会合で「ものすごく少ないところでスタートするが、『小さく産んで大きく育てる』という発想を変えて、健康は守ってクリエイティブティを重んじる働

会合は二十日朝、東京都港区のホテルで「公益社団法人日本経済研究センター」がメンバー企業の社長による朝食会として開き、約百人が参加。塩崎氏は「会保障を主なテーマに講演し、終盤に労働問題に触れた」。

4/25 (土)

東京